



研究会・研修会等への  
報告者・講師の派遣  
(平成二十一年十月～十二月)

○「2009年度北海道農業経済  
学会大会シンポジウム」  
主催：北海道農業経済学会  
とき：平成21年10月24日  
テーマ：北海道における担い手  
・農地利用と農地制度  
改革  
講演：井上 誠司  
(当研究所・研究部次長)

○「わが村は美しくー北海道」留  
萌地区報告会  
主催：北海道開発局留萌開発  
建設部  
とき：平成21年10月29日

テーマ：地域のブランドを活か  
した多様なまちづくり  
に学ぶ  
講演：黒澤不二男  
(当研究所・特別参与)

○「J Aカレッジ研修会 教職  
員」  
主催：北海道農業協同組合学  
校  
とき：平成21年10月30日  
テーマ：山下一仁著『農協の大  
罪』が指すもの  
講演：正木 卓  
(当研究所・専任研究員)

○「平成21年度土地改良専門技術  
者研修ブロック研修」  
主催：全国土地改良事業団体  
連合会  
とき：平成21年11月20日  
テーマ：耕作放棄地の現状と課  
題  
講演：正木 卓  
(当研究所・専任研究員)

○「札幌大学サービス経済論講  
義」  
主催：札幌大学経済学部

とき：平成21年12月8日  
テーマ：北海道の農業金融  
講演：中山 忠彦  
(当研究所・特任研究員)

○「北海道女性農業者倶楽部十勝  
セミナー」  
主催：北海道女性農業者倶楽  
部  
とき：平成21年12月18日  
パネルディスカッションテーマ：  
元気をつくる農のあり  
方を考える  
コーディネーター：黒澤不二男  
(当研究所・特別参与)



## 「北海道南米移住史」発刊のご紹介

財団法人北農会・農業技術コンサルティングセンター

代表幹事 富田義昭

(社団法人北海道地域農業研究所顧問)

南米各地には北海道人が数多く移住しているが、これまで北海道人の移住史が無く、かねてから(財)北海道海外協会において移住史をつくることが検討されていた。同財団の事業は、平成一八年に(社)北方圏センターに引き継がれた。これを機に「北海道南米移住史」の刊行事業が具体化し、平成十九年二月に「北海道南米移住史編集委員会」が設置され、調査・執筆、編集が進み、昨年(平成二十一年)八月、A5判六六五頁の図書が、社団法人北方圏センターにより発刊された。

昨年は、北海道人のブラジル移住九〇年、パラグアイ移住七〇年の記念すべき年であり、八月下旬ブラジルおよびパラグアイにおいて記念式が行われ、高橋はるみ北海道知事ほか関係者が両国の記念式典に参加し、その機会に両国の北海道人会などに刊行図書が贈呈された。

この図書には、日本の移住政策の変遷や北海道人の移住の特徴とともに、北海道の開拓にご苦勞された人々が、再び南米各地の開拓に従事した歴史と、地域の発展に活躍、貢献された人々の辛酸と成功のエピソード

がインタビュー記事となっており、史料価値の高い図書と評価されている。また、北海道出身者の南米移住者名簿が整理(一七五頁)されたデータ、貴重な写真、年表などが掲載されている。

私は(財)北海道海外協会の評議員の時代から企画に関わり、編集委員の一員として参画するとともに、特に、①ブラジルの薄荷と北海道の薄荷との関わり、②南米大豆栽培における日本の農業技術支援についての記録をまとめたが、寄稿文として掲載された。

この図書は、限定出版のため、南米ゆかりの諸機関のほか、全道の各市町村および図書館には贈呈されている。なお、薄荷や大豆の研究と加工流通に関連し取材協力などをいただいた、

(独)北海道農業研究センター、道立(中央・十勝・北見)農業試験場、ホクレン(社)北海道地域農業研究所、

(財)北農会には寄贈されているので、関心のある方は閲覧できる。



編集：北海道南米移住史編集委員会

発行：社団法人北方圏センター

体裁：A5判665頁、クロス装丁、化粧ケース入り

発行部数：初版は1,000部印刷、非売品

## DATA FILE

### 関連事項／DATA

ポケットファームどきどき  
〒311-3155  
茨城県東茨城郡茨城町下土師1947  
☎ 029(240)7777  
FAX 029(292)8700

中標津町農業協同組合  
〒086-1007  
標津郡中標津町東7条南2丁目1  
☎ 01537(2)3275  
FAX 01537(2)0175

中標津町役場  
〒086-1197  
標津郡中標津町丸山2丁目22番地  
☎ 0153(73)3111  
FAX 0153(73)5333

計根別農業協同組合  
〒088-2682  
標津郡計根別町字計根別本通東3丁目17  
☎ 0153(78)2111  
FAX 0153(78)2556

北海道中標津農業高等学校  
〒088-2682  
標津郡中標津町計根別南2条西1丁目1番地1  
☎ 0153(78)2053  
FAX 0153(78)2465

千葉大学大学院園芸学研究所  
〒271-8510  
千葉県松戸市松戸648  
☎ 047(308)8712  
FAX 047(308)8720

福島大学  
〒960-1296  
福島市金谷川1番地  
☎ 024(548)8006(代)  
FAX 024(548)3180

名古屋学院大学 瀬戸キャンパス  
〒480-1298  
愛知県瀬戸市上品野町1350  
☎ 0561(42)0350  
FAX 0561(42)0629

(社)北海道地域農業研究所  
〒060-0004  
札幌市中央区北4条西7丁目1番地  
☎ 011(281)2566  
FAX 011(281)2707  
HP: <http://www.chiikinouken.or.jp>

## 編集後記

新年明けましておめでとございます。  
本年もよろしくお願い申し上げます。

● 昨年は三年に一度のJA大会の年。全国大会は「大転換期における新たな協同の創造」農業の復権、地域の再生、JA経営の変

革」、全道大会は「北海道農業の潜在能力のフル発揮への挑戦」「協同と信頼の絆で築く新時代のJA」である。「決議しても行わず」とならないよう、各JAの事業計画へ取り入れ実践を期待したい。

● 年末にはその年の世相を表すイベントなどが行われる。

先ず、日本漢字能力検定協会の「今年の漢字」には「新」が選ばれた。新政権誕生や新型インフル

エンザ、スポーツ界の新記録などから一位に推されたとのこと。

「新」は明るい漢字であり、平成二二年の幕開けにふさわしい字。

● 次に、昨年は食の安全などから「農業」に注目が集まったが、日本経済新聞社による「二〇〇九年ヒット商品番付」に食品関係がいくつか入っている。その代表選手が関脇に入った「規格外野菜」。食の分野で、形が不揃いでも品質が変わらないという費用対効果が

重視された結果か。

● 今年はいよいよ四年に一度のサッカーワールドカップが開催。一次リーグで日本の対戦相手はいずれも格上とみられる国ばかり。本ままであと半年程度。持ち前の組織力を生かしたプレーで目標のベスト4入りをめざして欲しいが、このハードルはかなり高い。ニッポン頑張れ！

(中出 孝一)